

# 第2章 環境・資源



# 1 地球温暖化対策

秩父市役所では「秩父市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を策定し、全庁で地球温暖化対策に取り組んでいる。

これは「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき策定した計画であり、温室効果ガス排出量の削減目標等を定めている。

秩父市役所は、秩父市内において温室効果ガス排出量の比較的大きい経済主体であるため、自らの事務・事業により排出される温室効果ガスの排出量を抑制することは、秩父市全体における温室効果ガス排出量の削減につながる。そのため、秩父市役所自身が率先的な取組を行い、地域の模範となることが求められている。

具体的な目標として、秩父市役所の全部局で温室効果ガス排出量を平成25年度比で平成31年度までに3%削減することを掲げて取組を行っている。平成27年度において、秩父市の事務・事業で排出された温室効果ガスの総排出量は、14,749トン（CO2換算）であった。（表2-1）

これは、基準年度である平成25年度と比べて6.6%削減できたことになる。目標達成に向けて、今後も積極的に省エネに取り組んでいく必要がある。

また、市民に対する啓発活動として、埼玉県が実施しているエコライフDAYへの参加の呼びかけを行っている。

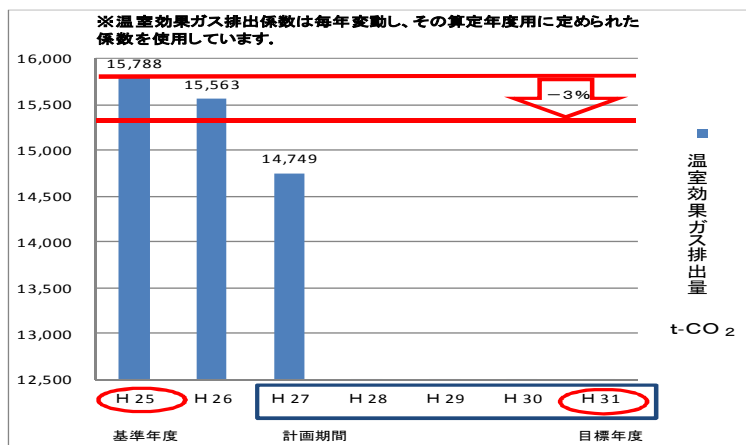
エコライフDAYとは、地球温暖化防止のため、簡単なチェックシートを利用し、省エネ・省資源など環境に配慮した生活を1日体験するものである。

平成27年度は秩父市において延べ21,514人が参加し、ライフスタイルを見直すきっかけとしていただいた。

その他の地球温暖化対策として、走行時に温室効果ガスを排出しない電気自動車の普及促進につながる取組を行っている。

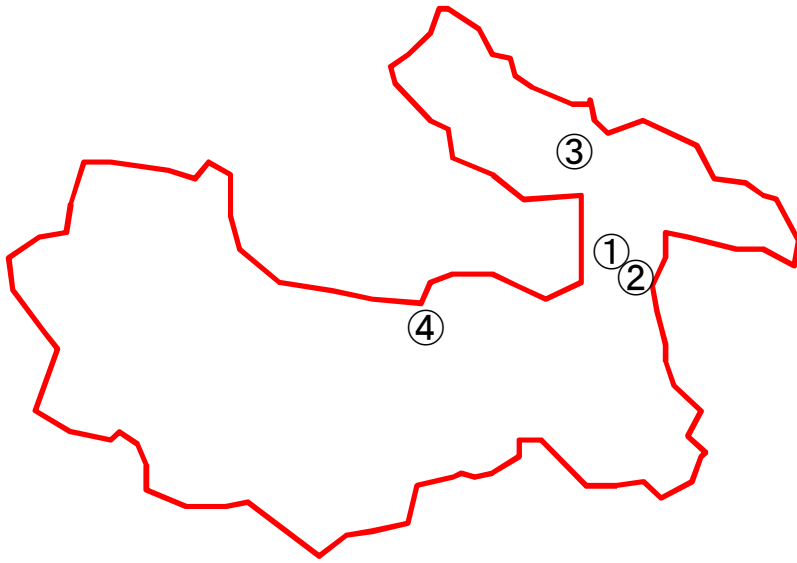
表2-1 秩父市の温室効果ガス排出量の推移

単位:t-CO<sub>2</sub>



平成24年度に①秩父地場産センターに電気自動車用急速充電器を設置したところだが、電気自動車利用の利便性の更なる向上のため、平成27年度には②道の駅ちちぶ、③道の駅龍勢会館、④道の駅大滝温泉に同急速充電器を設置した。(図2-1)

図2-1秩父市内道の駅等の電気自動車用急速充電器位置図



## 2 太陽光発電の普及

再生可能エネルギー利用の普及促進を目指し、大宮字峯沢の旧埼玉県農業試験場の用地を使用し、大規模太陽光発電（メガソーラー）事業を行ってきた。

これは、市が県有地、民有地を賃借し、市有地とあわせて事業者へ賃貸し、事業者が施設を建設、運営する事業で、平成24年12月プロポーザル方式により事業者をHergo Sun Japan（エルゴ サン ジャパン）とすることを決定した。

その後、事業者が平成27年11月工事を開始し、平成28年3月には竣工式を行い、商業的発電が開始された。

この事業の事業用地は21,423平方メートル（県有地11,527平方メートル、市有地8,103平方メートル、民有地1,793平方メートル）で、設置された太陽光パネルは4,564枚、最大出力は約1メガワット、年間の発電量は128万4千キロワットアワーを予定しており、一般家庭約350世帯分の年間消費電力を供給することができる。

そして、秩父市歴史文化伝承館には、埼玉県の補助金を活用して太陽光発電パネルと蓄電池を設置した。

太陽光パネルは大雪による被害も想定して壁面に垂直設置している。太陽光パネルで発電した電力は蓄電池に蓄えられ、蓄電容量を超える分の電力は館内で消費される。

災害等により電力会社からの電力供給が遮断された場合には、災害対策業務の実施や避難所機能の維持に係る最低限のOA機器や一部夜間照明等のための非常電源として、太陽光パネルまたは蓄電池から供給される電力を利用することができる。

また、一般家庭等における太陽光発電設備の普及を促進するため、太陽光発電設備を設置する市民に対する補助制度を平成24年度から実施しており、平成27年度は39件補助金を支給した。（表2-2）

表2-2太陽光発電設備等設置費補助金支給件数

年度	単位:件	
	太陽光 発電設備	蓄電池
H24	46	—
H25	118	1
H26	38	—
H27	39	—

※H25年度のみ蓄電池を補助金交付対象とした。



歴史文化伝承館太陽光パネル

### 3 使用済みてんぷら油のリサイクル

秩父市では、家庭や学校給食調理場等から回収した使用済みてんぷら油を原料としてバイオディーゼル燃料（BDF）を製造している。

BDFの製造・利用は、水質の保全や廃棄物の削減、そして資源循環型社会の実現につながる。

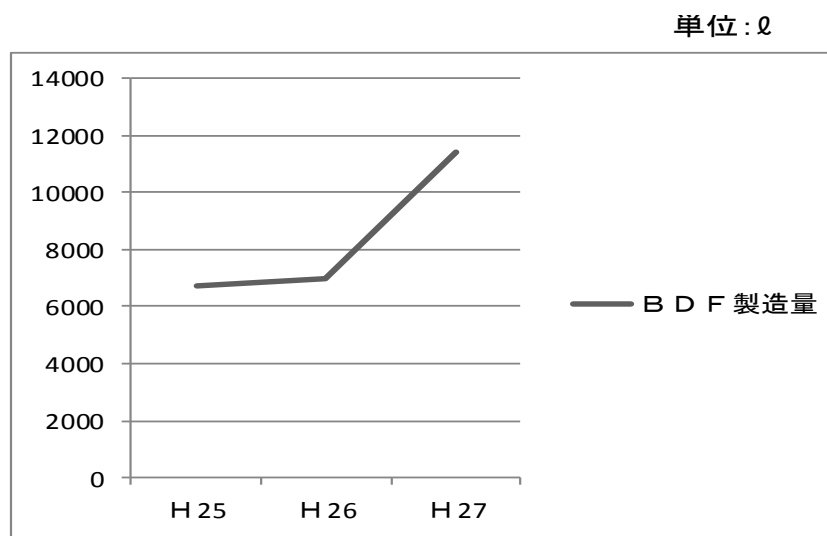
製造したBDFは、一部の公用車、牽引式発電機、吉田元気村の浴室用ボイラーの燃料として使用している。

平成27年度末現在、BDFを燃料とする公用車の合計走行距離は455,864km（地球約11周分）である。

また、牽引式発電機で発電した電力を利用して、野外イベント時に各種電化製品を使用した他、しだれ桜や氷柱のライトアップを行った。

平成27年度は、使用済みてんぷら油回収量が14,931L、BDF製造量が11,430L、平成26年度の製造分も合わせたBDF使用量が11,708Lであった。（表2-3）

表2-3 秩父市のBDF製造量の推移



## 4 花いっぱい運動

花いっぱい運動とは、景観美化およびコミュニティ活動の活性化を目的とし、秩父市内の各町会の協力のもと、街中をたくさんの花で彩る運動である。花いっぱい運動を通して、潤いと活気のある、訪れたいくなる街づくりを目指している。

平成27年度はマリーゴールドの花苗11,772株、パンジーの花苗9,800株、土、プランターを各町会に配布した。

なお、平成28年度は各町会がビューポイントを決めて植栽計画を作成し、多くの人の目につくところを重点的に様々な花で飾り、花によるおもてなしを実践している。



花いっぱい運動の様子

